

2014年度の現代アートの学校MAD (Making Art Different—アートを変えよう、違った角度で見てみよう) は、3つのコア・スタディーズ、3つのアドバンス・スタディーズ、および4つのゼミによって構成されています。終わらない「3.11」と来るべき「2020年」のあいだで、私たちはどこに向かって歩んでいるのでしょうか。時代の先行指標ともいえるアート。それは、私たちが辿ってきた歴史や社会の成り立ち、また現在の私たちの立ち位置、あるいは人知の及ばないもののごとくあかりを照らし出します。その灯りをたよりに、ともに語り合い、この時代をたくましく生き抜く思考とラディカルな態度を身につけてみませんか？

- アートを、グローバルな文脈のなかで、哲学思想や社会学、文学などの学問領域をとおして考える。
- 知識がなくても、今のアートに触れ、この時代や社会について考えたいという熱意があれば、大丈夫。
- コア・スタディーズは、コースで受講しても、クーポンで気になるレクチャーを受講してもOK。
- アートの奥深さに触れたい方は、アドバンス・スタディーズやゼミへ。

ロジャー・マクドナルド(AIT)
キュレーター。ケント大学美術理論にて博士号を取得。2006年の第一回「シンガポール・ビエンナーレ」キュレーター。
東京造形大学非常勤講師。個人美術館フェンバーガー・ハウス(長野)ディレクター。

小澤慶介(AIT)
キュレーター。ロンドン大学ゴールドスミスカレッジにて現代美術理論修士課程修了。
MADの受講生とともに守章「終日中継局」展(2012)、泉太郎「たしかめる」展(2013)、林加奈子「きみとばくと街の灯」展(2013)などの実験的な展覧会企画を手掛ける。
女子美術大学非常勤講師。「十和田典入瀬芸術祭 SURVIVE この惑星の、時間旅行へ」(2013)キュレーター。

飯田志保子 (インディペンデント・キュレーター／札幌国際芸術祭2014アソシエイト・キュレーター)

小野正嗣(作家／現代フランス語圏文学)
櫛野展正(絹の津アートミュージアムディレクター)
小泉明郎(美術家／ARTISTS' GUILD)
小山登美夫(小山登美夫ギャラリー代表)
近藤健一(森美術館キュレーター)
郷泰典(東京都現代美術館学芸員)
沢山遼(美術批評)
塩見有子(AIT)
建昌哲(埼玉県立近代美術館館長)
鶴野ゆか(ユカ・ツルノギャラリーディレクター)
西尾美也(美術家)
西谷修(哲学者／東京外国語大学総合国際学研究院教授)

橋本誠(アート・プロデューサー)
 畠山直哉(写真家)
 廣瀬純(龍谷大学教授)
 保坂健二郎(東京国立近代美術館主任研究員)
 堀内奈穂子(AIT)
 ビーター・マクドナルド(美術家)
 アンドリュウ・マウグル(フーランスライター／編著者)
 毛利嘉孝(東京藝術大学教授)
 森司(東京アートポイント計画ディレクター)
 森弘治(美術家・ARTISTS' GUID)
 山出淳也(NPO法人BEPPU PROJECT代表理事)
 吉野誠一(アート・コレクター)
 吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)
 アシュレイ・ローリングス(Blum & Poe, Tokyoディレクター)



1 コース				2 クーポン		
コース名	レクチャー数	各期の受講料	各期の定員	クーポン名	レクチャー数	受講料
キュレーション	指定10コマ+選択2コマ	¥51,000+税(交流会費込)	30名	ポップビスト	3コマ	¥14,000+税
				ミニマリスト	5コマ	¥21,000+税
アートワールド	指定10コマ+選択2コマ +バスツアー1回	¥55,000+税(交流会費・バスツアー代込)	20名	インプレッションист	10コマ	¥39,000+税
				リアリスト	20コマ	¥70,000+税
アーティスト	指定8コマ+選択2コマ	¥35,000+税 (交流会費込・作品プレゼンテーション講評有)	12名	シュブレマティスト	56コマ	¥190,000+税 (交流会費等込)

テーマ① 1964—あの頃の東京から考える2020年／テーマ② アートは世界をどう変える？／テーマ③ ヨーロッパ理性の溶かし方

各テーマ: レクチャー数 6回 ¥25,000+税(交流会費込) 定員: 20名

○1テーマから受講することができます。

ゼミ名	ゼミ数	各期の受講料	各期の定員
果てしない絵画の世界	5回 +美術館訪問1回	¥55,000+税	12名
大いなる分歧とアートの存在論	5回	¥51,000+税(プロジェクト制作費込)	10名
ディスコースのラボ NEW	6回	¥45,000+税	10名
アーティスト・プラクティス ※本ゼミのみ通年開講	10回	¥240,000+税(展覧会制作費込*) *作品制作費は含まれません	4名

○一期のみ、あるいは通年で受講することができます。

お申込は、2014年1月21日か受け付けます。HPにて、MAD2014の概要や受講方法をご確認の上、オンライン申込フォームに必要事項を記入し、送信してください。

FAXにてお申込をご希望の場合は、お問い合わせください。原則として、お申込完了後の変更、キャンセルおよび返金は受け付けておりません。予めご了承ください。

アーティスト・プラクティスは、お申込に際し、選考があります(選考料有)。詳しくはHPをご覧ください。

アーティスト・プラクティス: 2014年3月14日
 コア・スタディーズとゼミ: 2014年3月24日 (4月開講分)、8月18日 (9月開講分)
 アドバンス・スタディーズ: 通年受講の場合5月19日、1ターマのみの場合5月19日 (5月開講分)、7月22日 (8月開講分)、10月14日 (10月開講分)。
 クーポン: 2014年12月まで随時受け付けています。

- プログラムは2014年4月以降に開講するため、消費税率は8%となります。
- 展覧会の入場料は、受講生の負担になります。
- 掲載情報は、2013年12月現在のものです。プログラムの内容やスケジュール、また講師は変更される場合がありますが、事前に告知されます。

「無料体験レクチャー」では、旬なテーマの特別レクチャーほか、スタッフよりプログラムや受講方法について説明を受けることができます。
開催日時は、2014年1月28日、2月24日、3月20日、いずれも19:00-21:00です。お申込などの詳細はHPへ。
4月以降は、随時、MAD受講方法に関するお問い合わせを受け付ける「相談会」を行います。

2014年2月28日までにお申し込んだ方は、受講料が5%割引となります。

MAD修了生で2月28日までにMAD2014をお申し込んだ方、また、新規で2つ以上のコア／アドバンス・スタディーズ、クーポン、ゼミを同時にお申し込んだ方は、受講料が10%割引となります。その他の割引や特典についてはHPをご覧ください。

※全ての割引において「ポップリスト」「ミニマリスト」は対象外です

MAD2014 コア・スタディーズ

アートの基礎の基礎

19世紀から21世紀までの美術史やキュレーションの基礎知識、アート界の仕組みや動き、アーティストになるための思考法まで、現代のアートにさまざまな角度からアプローチする3つのコースがあります。各コースでは、レクチャー後に開催される交流会をととして、共通の関心をもつ仲間を作ることができます。また、コア・スタディーズ内のレクチャーを好きなだけ自由に組み合わせて受講できるクーポンもあります。クーポンは追加購入することが可能です。

19世紀から考える、21世紀のアートのかたち

キュレーション・コース

アートとキュレーションの歴史と変遷を合わせて学ぶことができるコースです。「権威と伝統を疑え!」、「アート、きわめて政治的なもの」、「権力と資本、そしてアートの不／可能性」、「実験とキュートピア」という4つのキーワードをもとに、アートの歩みとその力を、時代あるいは社会との関係において眺めます。時代を先取りしながら、世界観を提示しつづけたアートとその発信メディアであったキュレーションの世界を、ロジャー・マクドナルドと小澤慶介がナビゲート。みなさんと一緒に200年余の旅に出ましょう。レクチャーは原則として、平日19時-21時に行われます。

前期(2014年4月～8月)
権威と伝統を疑え!
○マルセル・デュシャンの頭の中―芸術を拒否し続けた男
○表現の自由を求めて―反芸術と日本の戦後
○拡張するアートの場―美術館はもういない?
○現代アートのはじまりっていつ?―クールベから考える
○眼から頭へ、物質から言葉へ
―コンセプトチュアル・アートとは?

アート、きわめて政治的なもの
○記憶の生産と表象
―アーカイヴとキュレーションの深い関係
○複製技術の到来で世界はどのように変わったか
○映像文化と長い20世紀
○グローバリズムとキュレーション―表象の政治学を考える
○他者って誰?―相容れないものを表す方法論

後期(2014年9月～12月)
権力と資本、そしてアートの不／可能性
○モダン(近代)と正しい芸術の語り方
○地域社会と芸術祭の行方
○新自由主義と国際展―経済から見るアートの場の変容
○人とモノと場の関係が作品になる?―関係性の美学再考
○イデオロギ―とキュレーション―権力と展覧会の危うい関係

実験とキュートピア
○彫刻からインスタレーションへ
○ハラルド・ゼーマン考―エキシビジョン・メーカーの父
○キュレーションが辿った道
―展覧会の変容と20・21世紀のアート
○二つの世界大戦とアートの変容
―近代国家の成熟とアヴァンギャルド
○絵画に残された道とは?―メディアの特性と強度を探る

アートをもっと自分のものに―アートとアート界の動きを知る
アートワールド・コース
「アート好き」を抜け出し、アートの仕事をしたい、アートをとことん楽しみたい人、集まれ!
アート界には、作品を生み出す人、作品と買い手をつなぐ人、世の中の役に立つように活用する人、未踏の領域を切り拓いて場づくりをする人など、さまざまな思いをもった人たちが関わっています。美術館やギャラリーなどの現場で活躍する多彩なゲストの話から、自分のやりたい事や合った方法を見極め、アートと社会を結んでみませんか?
各期全10回のレクチャーのほか、本コース生は、各期1回、近郊の美術館などを訪問するバスツアーに参加できます。＊過去の訪問先:ヴァンジ彫刻庭園美術館(静岡県)、ハラミュージアム アーク(群馬県)など
レクチャーは原則として、平日19時-21時に行われます。

前期(2014年4月～7月)
現代アートのA to Z
○現代アートって何? 小澤慶介／塩見有子
○アートのマーケットをつくる仕事 小山登美夫
―時代を読む力
―キュレーターの仕事と美術館の舞台裏 近藤健一
○アーティストの存在理由? 畠山直哉
○アートと社会、2014年上半期のアートシーン 塩見有子／堀内奈穂子

お金にかえられないアートの力
○震災で見てきたアートの姿 小澤慶介
○こどもが、こどもで、いられる場所―二つの事例から
○頭の中をひっくりかえせ!
―アール・ブリュットの底力 櫛野展正
○アートによる町づくりの効用 山出淳也
○アートで企業はどう変わる? 塩見有子／堀内奈穂子

後期(2014年9月～12月)
アートとアート界の青写真
○この先10年のアート界へ 塩見有子
○この国の文化政策の行方 吉本光宏
○日本の戦後美術とアートマーケットの戦略 アシュレイ・ローリングス
○アート・コレクターの社会論 吉野誠一
○2020年までのアートを考える 森司

自由な想像力+折れない心＝アート
○しがらみに束縛されないアートの道
―インディペンデント考 塩見有子
○アート界の入口ってどこ? 橋本誠／鶴野ゆか
○飛んできた球を打ち返す、キュレーター―道 飯田志保子
○ファンドレイジングとアート・マネジメントのいま 塩見有子
○アーティストの自己マネジメントと表現の可能性 西尾美也

「アーティスト」になるための基礎体力づくり

アーティスト・コース

表現活動をする人が、「アーティスト」になるための基礎的な思考訓練をするコースです。作品の制作のみならず、展示空間を作り込む力、あるいは時代を鋭く読み込んで身体的に展開する力も試されるアーティスト。レクチャーやディスカッション、ワークショップをとおして、必要な思考力・洞察力・実行力を身につけます。すべての回は、森弘治氏(美術家)と小澤慶介によって行われるほか、ゲスト講師を迎えることもあります。本コース生とシュプレマティストは、作品プレゼンテーションの講評を受けることができます。レクチャーは原則として、土曜日の日中に行われます。

前期(2014年4月～8月)
表現を「作品」にするために
○アートの定義をみんなで考える
○プレゼンテーション
○作品と展示空間を読み解く力
○アートの種を見つけて形にする方法
○スタジオから展示空間へ
○作品を展覧会で上手に見せるために
○素材と表現と目的の関係式を考える
○アートを上手に使う方法

後期(2014年9月～12月)
なぜ「今」、アートへ向かうのか
○同時代性とは何か?―マルセル・デュシャンから考える
○リアルって何だ?―リアリティの見つけ方とその読解力
○リアリティに厚みをもたせる調査とは?
○アーティストの「現代」に対する距離感と表現媒体
○距離感と表現媒体を自分のものにする
○表現における個性の獲得のしかた
○プレゼンテーション
○アーティストとしての戦略を立てる

MAD2014 アドバンス・スタディーズ

アートをより広く、より深く

アートが、それそのもので存在するというより、社会の仕組みや時代思潮などと関係しているとしたら、どのように眺めることができるでしょうか。社会に抵抗するのか、違う価値を提案するのか、社会の風潮を助長するのか、大衆を煽動するのか、あるいはまったく関わりを持たないのか。それらのさまざまな結び目を考えながら、隣接する学問領域のテーマ別レクチャーとディスカッションで、目の前に広がる複雑な世界とアートを少しずつ読み解きます。アドバンス・スタディーズでは、各テーマにつき3つのサブテーマ、合計6つのレクチャーを行い、集中的に知識を深めることができます。レクチャーは原則として、土曜日の日中に行われます。

テーマ①(2014年5月、6月、7月)

1964―あの頃の東京から考える2020年

2020年の東京オリンピックが私たちに何をもたらすのかについて、1964年の東京オリンピックを巡って起こされた議論やそこに現れた社会状況から考えはじめます。スポーツの祭典であるとともに、都市のインフラや生活文化を急激に変化させる経済文化装置であるオリンピックをとおして、私たちの未来を予想します。

○クリエイティヴなスペクタクルへ? 1・2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
○1964年と2020年を結ぶ、アートの点と線 1・2 建畠哲
○都市の変遷とアートの社会学 1・2 毛利嘉孝

テーマ②(2014年8月、9月、10月)

アートは世界をどう変える?

美的なものとは、単に「美しいもの」ではなく、ギリシア・ローマ時代から「感性的なもの」を意味しています。それは、時として硬直化した社会のあり方に異議申し立てをし、それを変えてゆく原動力にもなります。アートを美的なものと捉えると、それは社会に対してどのような可能性をもっているのでしょうか。

○美的であることと世界が変わること 1・2 小澤慶介
○生と生活の革命としての芸術 1・2 沢山遼
○アートが社会をひっくり返すとき 1・2 廣瀬純

テーマ③(2014年10月、11月、12月)

ヨーロッパ理性の溶かし方

この世界に言葉では言い表せない領域があるとしたら、それは何でしょうか?言葉によって世界を構築してきたヨーロッパの文化や価値観を疑ってみると、実に豊かな世界像が表れてくことに気づきます。私たちが少なからず影響を受けているヨーロッパ。ここでは言葉の外にある世界の見え方を探ります。

○創造の地下水脈―「正しい歴史」から逃れること 1・2 小野正嗣
○アール・ブリュットが「アート」になる時 1・2 保坂健二郎
○ヨーロッパが、アートに投げかける影 1・2 西谷修

MAD2014 ゼミ

アートの海に、深く、潜る

アートは、時に生きるための思考や術策、糧となり、世界の成り立ちや社会におこる力関係、人知のおよばない神秘を垣間見せてくれます。アートに向き合うことは、この世界の「わからなさ」に向き合いつづけることに他なりません。アートを、私たちにとって、今ほんとうに必要なものとしてもう一度捉え直すと、「アート」としては見えなかったものがアートに見えてくることも。少人数制のゼミで、各テーマについて、実践やディスカッションを通じて深く考えます。「アート」を疑い、その可能性を追求しましょう。

絵画から世界を読み替える

果てしない絵画の世界

時間をかけて、じっくりと絵画に向き合うことがもたらす経験を考えます。洞窟絵画から中国の宋時代の山水画、初期ルネッサンスの絵画、近現代の絵画をランダムに選び、時に美術史や理論のテキストを参照し、また時にペインターの視点に触れることで、絵画が開く現実にはあり得ない時間と場を旅します。ものごとや情報が目まぐるしく変わる時代だからこそ、私たちが見知った世界の外側を見ることができるかもしれません。本ゼミは、ロジャー・マクドナルドがリードし、ロンドンを拠点に活動するペインターのピーター・マクドナルド氏が各期2回程度参加し、議論を深めます。全5回のゼミのほか、各期1回、美術館訪問もいます。事前に英文テキストが配布され、ゼミは日本語で行われます。レクチャーは原則として、平日19時-21時に行われます。

前期(2014年4月～6月)
下記のテーマを5回のゼミを通して考えます。
○洞窟壁画と変性意識状態
○北宋時代の山水画と視覚の旅
○絵画について考えるための、
―サイケデリック・インフォメーション理論
○絵画のテクニクとトレーニング
○ディーブ・ルッキング―見ることを極めてゆく何が起こる?

後期(2014年9月～11月)
下記のテーマを5回のゼミをととして考えます。

○絵画の物質性
○内視現象と芸術のはじまり
○アンリ・マティス 1914―1918
○デヴィッド・ホックニーとゲルハルト・リヒター
―絵画における二つの極
○絵画と真実―T. J. クラーク、ピカソを語る

震災後とアートの関係を考える

大いなる分岐とアートの存在論

きわめてヨーロッパ的といえる、私たちが慣れ親しんだアート。その下地には、ヨーロッパ近代が開いた、人間と自然を分割するという思想とそれに基づく実践が大きく横たわっているようです。しかし、それを揺るがした「3.11」は、もしかしたらアートのあり方についても私たちに再考を迫るものだったのかもしれません。本ゼミは、小澤慶介がリードし、テキストの講読とディスカッションで、改めて気づかされたアートとそれが照らし出す近代社会の姿に迫ります。全5回のゼミのほか、各期1回、ミニ・アートプロジェクトを企画します。各回のテキストは事前に配布されます。レクチャーは原則として、平日19時-21時に行われます。

前期(2014年4月～6月)
下記のテーマを5回のゼミをととして考えます。
○術の違いはどこにある?―技術と芸術の分かれ道
○お金で買えないものはない?
―経済の分かれ道と芸術がすむ道
○近代社会の終わりと芸術の関係性

後期(2014年10月～12月)
下記のテーマを5回のゼミをととして考えます。
○自然はどこにある?―人間と生き別れになった自然を探せ
○人間が自然に再び出会うということ
○自然災害と美的な関係性

アートを、見て、考えて、言葉にしよう!

ディスコースのラボ

ディスコースとは、世界のありようを捉える言葉、という意味。「おもしろかった」、「きれいだった」、「すごかった」を少しずつ掘り下げて、言葉にしてみると、自分とまわりの世界との接点が少しずつ見えてきます。これまでに得た知識をすべてつぎ込んでアートを読み込み、仲間とディスカッションをして練り上げ、テキストに落とし込み、未だ見ぬ友へ向けて発信してみませんか?本ゼミは、海外のアート雑誌『Frieze』などに寄稿する一方で、『ARTiT』にて著名アーティストへの単独インタビューを数多く行っている、編集者・ライターのアンドリュ―・マークル氏が日本語でリードし、テキストの指導をします。レクチャーは原則として、平日19時-21時に行われます。

前期(2014年5月～7月)
歴史になったディスコース
○アートとは何か?―ディスコースにつきまとう疑問
○遠足―経験のディスコースとリソースとしての美術館
○批判的な読解、それが読むということ
○時代を探る―新しい価値を捉えるアーティストの評論を読む
○展覧会との対話
○社会とアートを繋ぐ交流の空間＝テキスト

後期(2014年9月～12月)
空想のディスコース＝実践のディスコース
○歴史と同時代性からアートにアプローチ
○アートの視点から文化を見ること
○何がアートになるのか
○国際的なフィールドで日本のアートを語ること
○自分でディスコースを作る
○研究・実験・成果―来るべきディスコースへ

本気で「アーティスト」を目指している方へ

アーティスト・プラクティス

作品とコンセプトの関係が高いレベルで一貫した美術家を目指す方を対象とした、実践型の超少人数ゼミ。都内のギャラリーにおける作品発表(2015年2月予定)を最終目的とし、コンセプトの組み立てや作品の強化法、またネットワークの形成などについてディスカッションするほか、プロの美術家としての態度や知恵を養います。アーティストの支援組織アーティストズ・ギルドの森弘治氏や小泉明郎氏、そして小澤慶介が指導します。全10回のゼミのほか、アート界で活躍する外部のキュレーターやアーティストからチュートリアル(1回1時間、2回まで)を受けることができます。お申込に際し、書類とインタビューによる選考があります。レクチャーは原則として、土曜日の日中に行われます。

通年(2014年4月～12月)
○プレゼンテーション
○インターナル・チュートリアル
○制作における言語づくりへ
○インターナル・チュートリアル
○制作動機の見極めとリサーチの方法
○アート界におけるネットワーク作りとキャリアの展開
○アーティストのサバイバル術
○展覧会のシミュレーション
○作品を強化すること
○新作の公開プレゼンテーション

オンラインで20世紀の歴史について学べる、無料レクチャー

FREE MAD!

現代アートが気になりだしたら、アートの歩みを変えた事件や運動、作品などを解説したFREE MADへ今すぐアクセス! もっと深く知りたいと思えば、2014年度のMADへ。www.a-i-t.net/ja/freemad/